

学生デザイン 3D作品 講評会で披露



オンライン上で開催した最終講評会



広島工業大



3年

近藤 令奈

広島工業大(広島市佐伯区)で前期に開かれた講義「デジタルファブ리케이션」の

最終講評会がオンライン上で開かれた。環境学部建築デザイン学科の学生90人が、それぞれデザインした3D作品を紹介した。

デジタルファブ리케이션は、立体モデルを3Dプリンターなどで具現化する技

術。今回は身の回りにある二つの道具を再現して組み合わせ、新たな道具をデザインすることをテーマにした。学生ははさみと皮むき器、ポットとマグカップなど、さまざまな道具を組み合わせた3D作品を約2週間かけて完成させた。

講評会はオンライン上に再現した仮想のキャンパス内で開催。環境学部の杉田宗准教授(41)は「みんなで集まり、作品を披露し合えて良かった。技術を磨き、情報化が進む建築業界を担う人材に成長してほしい」と話した。